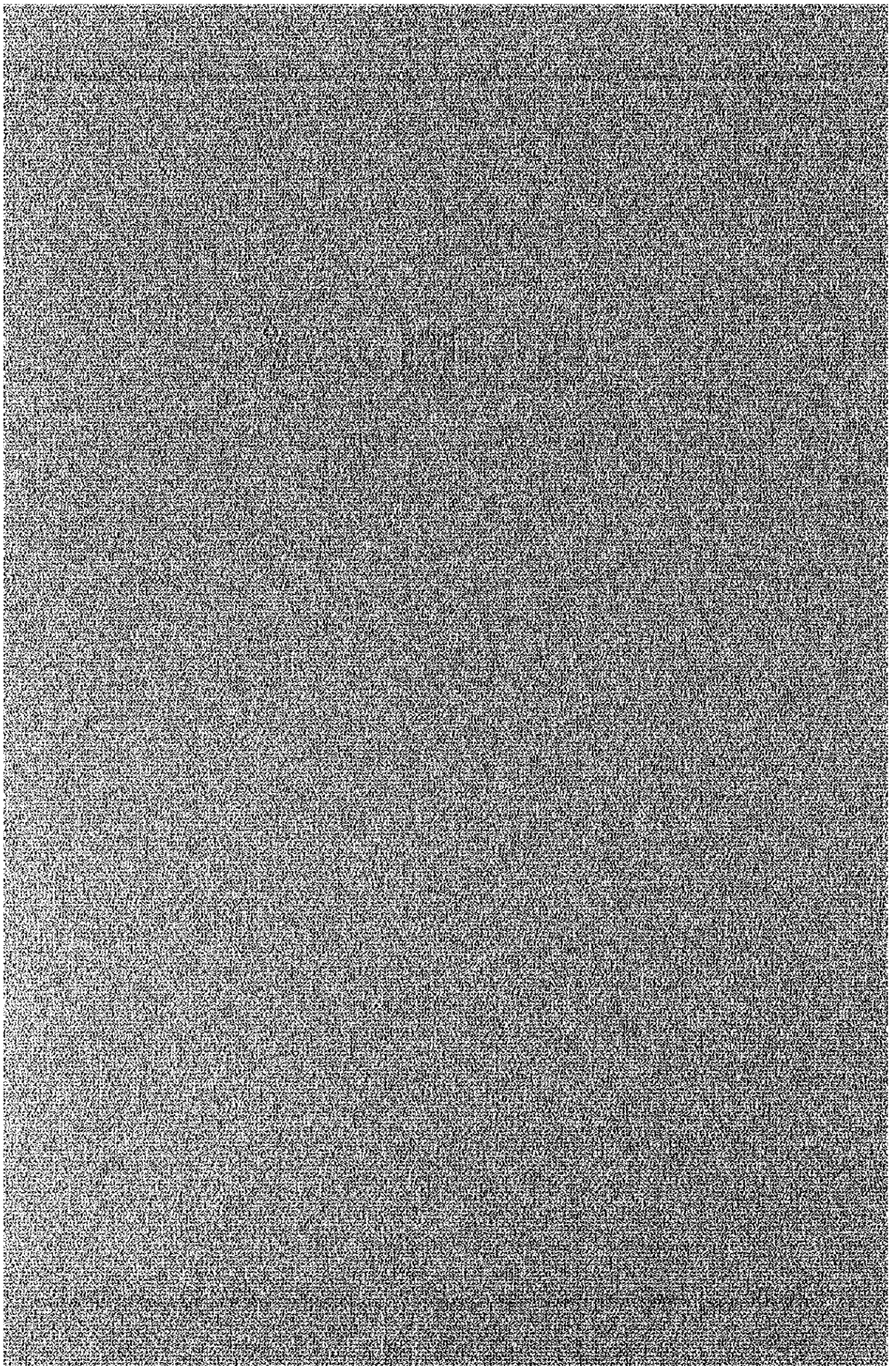


---

ヨーロッパ

---



発生国名	ブルガリア	犯罪の種類	暴行・傷害
発生場所 市町村名	ソフィア	市街地	バス内
発生日時	平成10年7月5日 午後8時頃～午後8時30分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <small>国籍</small> ブルガリア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

午後8時頃、試合観戦（ソフトボール）後、帰るため、始発のバスに乗り込んだ。バスの後部に7～8名の男女のグループがいて、何か騒いでいた。そこから離れ、バスの中央に位置している座席に座り、二つのバス停を通過した。乗客も増え、何ごともなくよかったと、窓を見ながらホッとしていたところに、いきなり蹴りがとんできた。1人の男の子が蹴り、もう1人がやめさせようとしていたが、再度、十数度、蹴られた。そのグループは、次のバス停で降りたが降りた後も、外から私の座席に近寄り、窓をガンガンたたきわめいていた。その後、乗客の人から「ブルガリアには、外国人に悪いことをする若者がいるんだ。ごめんなさい」と言われた。

凶器	無	種類		数量	
犯人	7～8名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	蹴られるのをブロック。				
被害者・事務所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・明らかに「民族浄化主義」を標榜する若者グループである「ネオナチ」「スキンヘッド」の犯行と思われる。
- ・バスの車中のみならず路上においても、同様のグループに遭遇したら速やかに回避することが賢明。また、グループが出没する場所にはできるだけ近づかないこと。単独行動も極力ひかえることも必要。

発生国名	ルーマニア	犯罪の種類	傷害
発生場所 市町村名	バカウ	市街地	路上
発生日時	平成10年9月3日 午前10時頃～午前10時10分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>国籍</small> ルーマニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

ブカレストで健康相談のため、列車のチケットを買いに、中心地の切符売場へ朝9時頃行った。市場のほうを歩いて、自分の部屋へ帰ろうと再びバカウで一番大きな通りに出てきた。そのとき、前方から歩いてきた1人の男がいきなり私の顔面にパンチをしてきた。突然のことでびっくりしたが、その場に立ちつくして泣いてしまった。男は私を1発殴ると走って通りを横切り逃げて行った。その場所には、たくさんの方がいたが、みんなあっけにとられているような感じだった。私は、市場に行った帰りだったので、カバンを前に抱えていた。特に、目立つ服装をしていたわけでもない。「ルーマニア人を悪く思わないで、あの人は頭がおかしいのよ」「夜は危険だけど昼、朝は安全なのよ、本当は」と誰もが口をそろえて言う。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1名				
被害内容	現金				
	暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）	顔面、ちょっと青アザが残っている。			
	物品略奪（品名・数量）				
	物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応	カウンターパートのところへ行き（歩いて）、部屋へ車で送ってもらった。同じチームの選手の部屋（私の隣）で、落ち着くまで休み、その後、選手2人と警察へ行った。				

安全対策のポイント

- ・突然の殴打事件は「スキンヘッド」「ネオナチ」グループの仕業と思われる。
- ・あっけにとられて大泣きする前に、自分がそういう環境の国にいることを認識し、1人では出歩かない、グループの出発場所や犯罪の多発地域を頭に入れる、等の対策を講じることが肝要である。

発生国名	ルーマニア	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	シナイア	市街地 列車	
発生日時	平成10年7月19日 午後10時50分頃～午後11時05分頃の間		
被害者	派遣形態	調査団員	男 国籍 ルーマニア

## 被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

シナイア観光の帰路、シナイア駅にて乗車券を購入後、列車に乗り込んだ折、財布の盗難に遭った。食堂車にて飲物代を支払うときに財布がないのに気がついた。乗車券購入より紛失発見まで11～15分間のことであった。財布はウエストポーチに入れていた。列車およびホームは非常に混雑しており、警察に届けた折、すりによる被害と認定された。

凶器	無	種類		数値	
犯人	不明				
被害内容	・現金	日本円換算で約18,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数値）	公用パスポート1、切手2,500レイ分（30枚）、パスポート貼付用写真2枚			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応					

## 安全対策のポイント

- ・海外においては、不要な多額の現金は持ち歩くべきではなく、旅行中等やむをえず持ち歩かなければならない場合でも分散して持ち歩く等の対策は不可欠である。
- ・本事例の場合、貴重品をまとめて「ウエストポーチ」に保管しているが、「ウエストポーチ」は貴重品の所在を他人に明示しているようなもので、犯罪者にとっては非常に都合の良い目印となる。「ウエストポーチ」には、簡単に出し入れする必要があるが取られても差し支えない物（サングラス、嗜好品等）しか入れないようにすることが肝要。

発生国名	ルーマニア	犯罪の種類	車上狙い
発生場所 市町村名	ブカレスト	市街地	路上
発生日時	平成10年11月5日～11月6日の間		
被害者	派遣形態	協力隊調整員	男 59 ルーマニア

## 被害者の状況【犯行の手口・被害の状況】

協力隊背景調査のため、地方出張していた。帰宅時に自宅前の路上に駐車していた個人車両左後部窓を割られていることを発見。すぐに警察に電話、その後車両に戻り盗難に遭ったか物品の確認をした。30分後警察から3人の捜査官が来て指紋検査、事情聴取をして帰った。

凶器	無	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金	日本円換算で約10,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）	自動車左後部三角窓の破損			
被害者の犯行時の対応	速やかに警察に連絡。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	翌日、速やかに新しい窓を入れた。				

## 安全対策のポイント

- ・路上駐車中の「車上狙い」犯罪の事例。
- ・「車上狙い」に対する防犯対策は、車中に物を置かない（外から車中の物が見えるようにしない）、安全な場所に駐車する、施錠は確実にを行う、防犯アラームをつける等であるが、本事例の場合、路上駐車という容易に犯罪に結びつく駐車をしていた。
- ・安全管理意識の基本の一つは「安全管理意識を風化させない」ことであるが、これまで安全だったからといって今後とも犯罪が起こらない保証はなく、常に「安全管理意識」を再確認し続けることが防犯の基本であることを再度認識すべき。



発生国名	スペイン	犯罪の種類	ひったくり
発生場所 市町村名	マドリッド市	市街地	公園
発生日時	平成10年4月8日 午前7時頃		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 <small>国籍</small> トルコ

**被害の状況【犯行の手口・被害の状況】**

朝7時、空港へ向かうため、コロン広場のバスターミナルへと向かう。バスターミナルは当広場の地下にあり、入り口は広場中央にしかない状態である。入り口手前で3名が歩いて来てすれ違いざまにショルダーバッグを奪おうとした。引っ張り合いになったが、私は大声で叫びながら荷物を守っていると、彼らもあきらめたのか、去っていった。その後、腕を切られていることに気がついた。カバンの切れた跡から察するに、かなり鋭利な刃物を使用したと思われる。事故当時周りの道には車が走り、若干の通行人もいる時間だが、広場は無人状態であった。また階段を降りれば、待合室、売店があり、人も多くいる。わずか数十メートルだが地上と地下では声も届かない。

凶器	有	種類	ナイフ（推定）	数量	
犯人	3名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）		腕～手の甲に数カ所の切り傷、全治3週間		
	・物品略奪（品名・数量）				
被害者の犯行時の対応	荷物を押さえながら、大声で助けを呼んだ。				
	被害者・職務 所帯の犯行時 の対応	救急車を呼んでもらい病院へ。警察、JICA事務所へ連絡。			

**安全対策のポイント**

- ・無抵抗に徹する。犯人は複数であり、凶器を所持している。引っ張り合う、大声を出す等の行為は犯人を刺激し、人身に危害を加えられる可能性を高める。
- ・ショルダーバッグは前に抱えて持つ。
- ・犯人のターゲットになりやすい行動をしていなかったか？ 安全に気を配っている姿勢を見せることは、犯人のターゲットになる確率を下げる。

発生国名	スペイン	犯罪の種類	ひったくり
発生場所 市町村名	マドリッド	路上	
発生日時	平成10年12月29日 午後8時頃		
被害者	派遣形態	派遣専門家（配偶者）	女 <input checked="" type="checkbox"/> ハンガリー

**被害の状況【犯行の手口・被害の状況】**

任国外旅行中のマドリッドの繁華街の裏通りで、賑やかな道から入った人通りの少ない場所の角から10mほどのところにあるレストランに入るため夫が先に入り、その後私が入ろうとして体半分入ったところで後ろからショルダーバッグを強く引っ張られた。犯人はバッグのひもを無理やり引きちぎって奪って行った。私がそれを追いかけてしようとしたところ、もう1人に引き倒された。夫が40mほど追いかけたところで、犯人がナイフを持って向かってきたので追跡をあきらめた。

凶器	有	種類	ナイフ	数量	1
犯人	2名				
被害内容	・現金	10,000ペセタ（日本円換算で約9,000円）			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）	手足に打身			
	・物品略奪（品名・数量）	パスポート、クレジットカード、眼鏡、ネックレス、イヤリング、ボールペン、ハンドバッグ			
被害者の犯行時の対応	滞在ホテルよりクレジットカードを無効にする手配を行う。最寄りの警察にて、被害届提出。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	12月30日マドリッド領事部にてパスポート再発行申請。 1月4日バルセロナ領事部にてパスポート再発行再申請。				

**安全対策のポイント**

- ・任国外旅行中、任国外研修中はもとより、休暇を利用しての国内旅行中での犯罪被害は従来から恒常的に発生しており、再三の注意喚起にもかかわらず一向に減少する気配すらない。居住地以外を旅行中の、しかも観光地における気持ちの高揚・解放感・物珍しさは「安全管理意識」「危機意識」を散漫にする傾向がある。
- ・本事例も慣れない旅行地を散策中の犯罪被害であり、いつでも安全管理意識を持続することを徹底すべきであるが、さらに本事例では犯人を追跡し、犯人側の反撃に遭って追跡を断念している。すり、ひったくり犯はほとんど刃物等の武器を携帯しており、追跡した後犯人側の反撃に遭い、身体への損傷を受ける可能性が大きいことを再認識すべきである。



